

環境フラッグシップ「LCCM 住宅」初のモデルハウスオープン

ライフサイクル全体で CO₂ 収支をマイナスに

住友林業株式会社(社長:光吉 敏郎 本社:東京都千代田区)は10月8日、「LCCM住宅」仕様のモデルハウスを鳥取県米子市でオープンしました。「LCCM(ライフサイクルカーボンマイナス)住宅」とはライフサイクル全体で CO₂ 収支をマイナスにする住宅で、環境フラッグシップとして4月22日に発売しました※1。当社独自の BF (ビッグフレーム) 構法による建物の長寿命化や太陽光発電による再生可能エネルギーの活用などを通じて脱炭素社会の実現に貢献します。



木質感の溢れる LDK

※1 4月21日 環境フラッグシップ「LCCM 住宅」発売 プレスリリース <https://sfc.jp/information/news/pdf/2022-04-21.pdf>

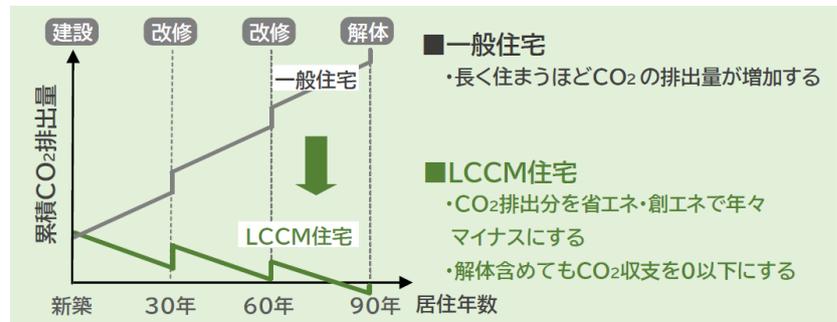
■「LCCM 住宅」の考え方

LCCM 住宅とは、建設時、居住時、解体時において省 CO₂ に取り組み、さらに太陽光発電などを利用した再生可能エネルギーの創出により、建設時も含めライフサイクル全体での CO₂ 収支をマイナスにする住宅です。

＜右図:CO₂ 収支のイメージ＞

一般住宅は太陽光発電などの環境機器を搭載しない在来木造住宅を指す。

LCCM 住宅は当社モデルプラン(BF 構法・2階建て・延床面積 114.18 m²)をもとに作成。



■脱炭素設計の効果

木は光合成で大気中の CO₂ を吸収し、炭素として留め置き、伐採し木材製品になっても炭素を固定し続けます。本モデルハウスは BF(ビッグフレーム) 構法の高い可変性によりライフステージに合わせて間取りを再考できるので建物が長寿命化し、炭素をより長期間固定できます。また光と熱をコントロールする設計の工夫、9.735kw の太陽光発電システムの搭載により居住時の CO₂ 排出量を大幅に削減し、LCCM 住宅の基準に適合します。構造躯体で使用する木材は 41.62m³、炭素固定量は約 32t(CO₂ベース)^{※2}で、テニスコート約 19 面分^{※3}の植林に相当します。

※2 林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/mieruka.html>

※3 50年生の植林スギ林で換算

■四季を楽しむ木の家での暮らしを提案

テレワークスペースをはじめとする家族それぞれの居場所や効率的な家事動線に拘った設計は、暮らしのイメージを膨らませます。広く設けたウッドデッキではアウトドア体験や家庭菜園、食事を楽しみながら、四季の移ろいを感じられます。「木の家^{ラボ}」^{※4}のリアルモデルハウスとして心と体を与える木の効用や、モデル家族(4人+犬)が送る新しい暮らし方を Instagram^{※5} や YouTube^{※6} で積極的に発信していきます。

※4 木の持つ可能性を独自の視点で研究している WEB サイト <https://sfc.jp/ie/tree/lab/>

※5 Instagram 「住友林業株式会社_戸建住宅公式」 https://www.instagram.com/sfc_ie/

※6 YouTube 「住友林業の家」 https://www.youtube.com/c/sfc_ie



室内外をつなぐウッドデッキ



四季を感じる外構設計

<モデルハウスの概要>

所在地	鳥取県米子市両三柳 2360-7 ※岡山支店 山陰営業所に隣接しています。
営業時間	10:00~17:30 (水曜定休) ※営業時間は変わる場合があります。
面積	延床面積: 157.13 m ² (47.52 坪)
構造	BF(ビッグフレーム) 構法 / 木造 2 階建て

間取りや案内図など詳細 : <https://sfc.jp/ie/area/modelhouse/result/1354/>

当社は木を伐採・加工、利用、再利用、植林という「ウッドサイクル」を回しています。森林の CO₂ 吸収量を増やし、木造建築をはじめとする木材の活用では炭素を長期間固定し続けます。脱炭素設計のスタンダード化を推進し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

《リリースに関するお問い合わせ先》

住友林業株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 鈴木・佐藤

TEL: 03-3214-2270 Eメール: ccom@sfc.co.jp

《木の家 Lab.に関するお問い合わせ先》

住友林業株式会社 住宅・建築事業本部 営業推進部

TEL: 0120-21-7555